

聴覚障害と知的障害を併せ持つ成人の携帯電話使用に関する研究
その練習、使用における援助について -

立命館大学応用人間科学研究科
対人援助学領域
障害・行動分析クラスター

本研究は、聴覚障害と知的障害を併せ持つ成人に携帯電話を利用できるスキルを行い、それを共同作業所との連絡・報告や日常生活場面でコミュニケーション手段として利用できるようにするための援助の方法について明らかにすることを目的としている。

聴覚障害と知的障害を併せ持つ成人においても、携帯電話使用の適切な練習を行うことによって操作できるようになり、それを日常生活の中で継続的に使用することが可能であることを実証的に示すことができた。

2ケースの実験的練習とその2ケースの使用援助追跡調査によっている。

2ケースの実験的練習では、共同作業所で働いている聴覚障害と知的障害を併せ持つ成人に対して、携帯電話使用ができるようにする練習を行い、その援助のあり方を検討している。ここでは、携帯電話の受信、送信の操作ができ、援助ツールとして「ひらがな五十音表カード」を使用して文字入力ができるようにする。また、携帯テレビ電話の使用ができるようにする練習をしている。正確なモデルを示し、適切なプロンプトを行うと、聴覚障害と知的障害を併せ持つ成人が携帯電話利用できる可能性を明らかにした。「ひらがな五十音表カード」を援助ツールとして導入し使用することが有効であることも示せた。携帯電話使用操作練習における援助内容も、いくつか具体化できた。

本研究の主に明らかにしたことは、知的障害を併せ持つ聴覚障害者が日常生活の中で楽しく継続的に携帯電話を利用しコミュニケーションの幅を広げることが可能であるということである。日常での、使用援助では、電話帳に送信相手を入力しておけば、送信、受信して、使用可能である。知的障害を併せ持つ聴覚障害者が、日常生活の中で携帯電話を利用することを楽しみ、勤務する共同作業所との連絡、友人との交信に使用することができるようになった。日常生活での携帯電話使用の援助的追跡調査の中で、利用料金を使用回数や利用時間を自分でコントロールすることが可能になった。砂時計を使った利用時間や1日の回数をコントロールする援助やそのための練習は、即座には効果が現れなかったが、その意図は理解し、生活費との関係の中で妥当と判断できる利用料金の範囲で使用できるようになった。

本研究で、知的障害と聴覚障害を併せ持つ成人が、適切な援助があれば、携帯電話を使用でき、日常生活においても利用可能であることを示すことができた。今日の社会実情の中で、知的障害を併せ持つ聴覚障害者が携帯電話を利用しコミュニケーションの幅を広げていく援護体制を構築していく上でおおいに役立つと考えられる。